

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400052		
法人名	医医療法人 社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 京都下京の家 (1号館)		
所在地	京都府京都市下京区夷馬場町30番地1		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2690400052-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と手をつなぎ、安心、安全な暖かい共同家庭を作っていきます。行事以外も手作り料理を増やしたり、職員共々日々穏やかに楽しく暮らせる様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域と手をつなぎ、安心、安全、温かい家庭を築きます。」と理念に掲げ、利用者が笑顔で楽しんで暮らせるよう支援を展開しています。開設3年目を機にこれまでのケアを振り返り、行事の写真を壁面に飾ることで家族や利用者の喜ぶ笑顔が見られ、職員も共に喜びを共感しています。運営推進会議ではホームの現状を報告し、消防署、往診医の専門的な立場からの意見やアドバイスをもらい、会議の意義や地域連携についての質問も挙がり、貴重な意見交換ができる機会となっています。また、自治会の会議に管理者が出席し、認知症について話をするなど、地域と手を携えて利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるケアを目指しています。職員の人材育成に取り組む事を課題とし、ベテラン職員の指導や勉強会を通してサービスの質が向上するよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より玄関内の提示と各階居有スペースに、簡素化した標語をあげ、常に目に触れ認識を深めてる。	法人の理念の基に開設時に職員間で考えたホーム独自の理念を標語にし、目につきやすいよう玄関に掲げています。管理者や職員は日々のケアが利用者にとって心地よく過ごせる温かい環境になっているか日々確認し合い、会議の中で理念に沿ったケアが意識できるよう振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来より近隣の挨拶を始め回覧板の回送、入居者散歩時の交流他、要望、苦情を聞いたりしている。	回覧板により地域の情報を得て、地蔵盆や梅小路公園のイベントを見学しています。散歩時に挨拶を交わし、認知症について理解が得られるよう自治会の会議に出席し、ホームでの生活の様子を話しています。「ひと町交流会」を通して地域のボランティアを募集し、手品や踊りなどのボランティアの方々が訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の地蔵盆の準備の協力や近隣の通りすがりの方の入居希望者の相談に応じてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃、お世話になっている行政職他、各専門他各専門職の方々の参加をお願いして各専門分野よりの意見、知識を頂きサービスに役立っている。	会議は隔月に開き、市の担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者等の参加を得て開催し、各専門分野の方にも来てもらっています。地域医療については往診医から説明してもらったり、ホームの3年間の歩みを写真付き冊子にし、ホームの様子を知ってもらう方法を工夫する等、意見が出やすいよう働きかけています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議、連絡会を通じて必要に応じて協力関係を築いている。何かあれば役所に出向き、相談したり情報収集している。	運営推進会議に市の介護保険課の参加があり、分からないことや相談したいことがあれば出向き、実情を知ってもらっています。研修案内が届いた時は、職員が自主的に研修内容を選んで参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	例外的に玄関の施錠は保安、安全の為にしているが原則として身体拘束は発生してないしさせない方針。天候等により散歩、居場所の転換による気分転換を図る事などケアの一環を実践している。	法人研修と月々の会議の中で身体拘束について学ぶ機会があり、全職員の周知に努めています。運営推進会議で施錠について意見が挙がり、施錠する事で利用者の行動を制限していないか等、具体的なケアの場面を通して身体拘束に繋がっていないか振り返っています。各フロアは電子ロック式の状況で、今後全職員の理解が得られるよう委員会を作る予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて認識、理解を深め、現場での虐待防止に努めている。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方がおられるようになり、学ぶ機会が多くなり個々の、必要性を関係者と話し合い活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において今後誤解のない様、トラブルの、無いよう、説明時に重点をおいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当を始めケアプラン作成時、定期的嗜好食調査時他、随時聴取を通じて反映させている。	面会時や運営推進会議、介護計画作成時に意見や要望を聞いています。家族から散歩や衣類の着用についての意見があり、職員間で検討し全利用者が散歩できるように取り組んだり、職員が利用者の衣類を改めて点検し服装に気をつけるようにするなど、出された意見は改善しサービスに活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従来より毎月定期会議、日々の職場での連絡事項を通じてお互いに提案、意見交換をおこなっている。	毎月、定例会議とユニット会議で意見を聞き、一人ずつ意見を述べてもらうことで全員が発言しています。管理者は職員の様子を見て都度声をかけたり、個人面談で意見を聴いています。法人の面談も不定期にあり、職員の意見を聴いています。日々のケアについての意見や休憩時間について意見交換しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は全職員の福利厚生面においても法人内の福利施設での関係各講習会やスポーツ親睦会や慰安旅行など気分転換を含めた職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前より一貫して統括法人の役職講習、他自己啓発のための講習資格の取得の奨励、それに付随する手当等職員組織全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会、交流会に参加し事例紹介や各施設での出来事等聞き視野、見聞を広げているが職員間の交流も拡大していきたい。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人様が不安、孤独感、緊張感があり、出来るだけリラックスできるように声掛けし、見守り、重要等意思の疎通を図り安心感を得て、いただける様につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が不安と感じてる点、要望を聞き、色々な事を傾聴しつつ良い関係を築けるようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の主たる要望を聞き、充分対応支援できることを説明する。慣れる雰囲気感じられるをまで、特に気を配り、個別的対応を心がける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親しくなり過ぎず管理し過ぎず適当な距離を保ち家族的な和やかで笑顔のたえない雰囲気を作り心をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在絆を大切に共に利用者を支えられる 信頼関係を築けるよう努める		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前人間関係が希薄にならないよう面会にこられたら、再来訪を促す。	友人、知人の面会時に話しが弾むよう会話の仲立ちをしたり、ゆっくりしてもらえよう配慮しています。自宅周辺の地域を車で見に行ったり、昔馴染みの洋服屋やスーパーで買い物をしています。利用者の思いを家族に伝え墓参りの実現や家族と馴染みの美容室へ出かけています。兄弟に年賀状を出す支援や写真入り手紙も投函し、これまでの人や場所との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂件居間の共有スペースにて各個人が自由に寛げるような雰囲気と職員が話題作り、団欒できるよう支援。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設以来数名の方が入院退去、他施設への転居等それぞれの事情により終了してしまっただがやや疎遠になりつつある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人が暮らしてきた思いを踏まえ、本人の好きな物、又日常必需品の買い物を始め色々な希望を聞き、家族様、本人の意向を踏まえ、対応している。	本人、家族から生活暦や趣味など聞き取り、アセスメントシートに記入し、前ケアマネジャーから得た情報も加え、思いや意向を把握しています。日々の支援の中で気づいた事や情報は、職員間で共有しています。困難な時は、利用者の発した言葉や表情に思いを寄せ、家族にも聴き、思いを汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様、本人、担当ケアマネより、の生活歴、趣味、職歴などの情報からこれまでの暮らしを把握し生活してもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体力、病歴などを把握して散歩を始め、各自の出来る範囲の把握、理解に努め本人に負担の少ないように苦にならない程度の生活レベルを期待する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い暮らしをする為に本人、家族関係者と話し合い又随時書面や口頭にて意見情報聞き作成の素材としている。	アセスメントや本人、家族の意向を基に暫定プランを立て、1ヶ月後に再アセスメントと見直しを行ない、2回目の介護計画を作成しています。介護記録と職員の意見を聞いて計画作成者がモニタリングと評価を行い、6ヶ月から1年で見直し、必要時には随時見直しています。サービス担当者会議では、医師の意見があれば事前に聞き反映させます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りノート、軽か支援記録、介護日誌を通じて、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化やニーズにに対してその都度、臨機応変的に通院介助、付添、代行など多機能的に動いている。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	催しをするときにボランティアに来て頂き安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設嘱託医がいるが以前からのかかりつけ医との関係も大事にしながら緊急時など困った時に対応していただいている。	今までのかかりつけ医の往診を利用されている方もいますが、ほとんどの方が協力医を選択し、協力医による往診を月2回受けています。利用者の健康管理について嘱託医の看護師に相談しています。訪問歯科の往診が週1回あり、希望者が利用しています。その他の医療機関の受診は家族が対応し、状況により職員も受診の支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託医を看護師による巻き爪爪切りや便秘に伴う浣腸など適時看護職サイドとも連携して頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医を通じ入院時にはホームでの生活様式、日々の体調などの情報を提供しバックアップをし入院見舞いを兼ね情報を聞き退院にそなえている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来的にあり得る重度化、終末期のあり方について家族等主治医と話し合い方針を共有し連絡を密にし、火急時ンお対応をしている。	契約時に法人の方針として基本的に看取りを行わないことや、ホームで医療行為ができないことを家族に伝えてあります。重度化した場合は、医師の判断で利用者の現状を家族に説明し、家族の意向の確認と医師、家族、職員と方針を共有しながらホームでできるギリギリまでの支援をした事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急処置や防災体験、知識、情報の収集を視野に入れ奨励していくつもりである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年、2回の消防訓練で避難の方法を身につけるとともに今後いかなることにも対応できるように努力していきたい。	年2回、消防署の協力の下で昼夜を想定した避難訓練を実施しています。通報の仕方の徹底、消火器の使い方、避難誘導の訓練を行い、消防署員よりアドバイスをもらっています。2階の利用者の避難をどうするか運営推進会議で意見が出されています。	運営推進会議に消防署から来てもらったり、自治会へ挨拶に行き、ホームを知ってもらおう働きかけをしていますので、今後は地域との協力体制を築いていけるよう避難訓練に参加を呼びかけてはいいでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当然の社会常識であるが入室時は必ずノック、声掛けをしてから入り、又、本人の希望、意向等に耳を傾ける。	法人の資料を用い、接遇マナーについて全体研修や職員会議で学んでいます。利用者とのコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、馴れ馴れしくならないよう利用者を思いやる心を持って対応するように心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に笑顔で低い又は同じ目線よりややかりやすい表現にて本人に選択して頂くようにアプローチしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	色々な面でサービスを提示するも本人の意思を尊重し、無理辞意しない。又、日々の生活要望に対しても出来る限り希望にそって様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人の好みを踏まえ、選んで頂き好きなものを着て頂く。理容、美容面においては専用業者の訪問美容にて好きなスタイルにカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1番の楽しみは食事であり、新鮮な素材は基より品数も栄養バランス良く配膳。おやつは、職員の愛情豊かな手作りにて提供。誕生日、行事食は本人の好みを提供する。嗜好調査も実施。	業者から届いた副食品を温め、盛り付けをしています。ご飯と味噌汁は毎回作り、利用者は味見やできる事に携わっています。週2回、食べたい物を聞いて買い物に行き、手作りおやつやお好み焼きなどを作り、利用者も食材を切るなど一緒に作っています。嗜好品調査で利用者の食べたい物を把握し、行事食や誕生日会の食事に活かしています。利用者とお弁当を作って公園へ出かける日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ飲み物は本人に希望をきき、お茶、コーヒーなど、お好みで。食事摂取も無理強いせず、本人のリズムにて摂取。又は体調不良の時は食事形態変更で対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、起床時、就寝時実行している。毎食後は、不完全である。入れ歯の着脱、清潔管理は、職員がほろしている。		

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを踏まえ、リハパンから布パンツに移行できる様に自立を視野にトイレまでの誘導、見守りを実行。	個々の排泄チェック表に記載し、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。個々の状況に合わせた声かけ、誘導等を行っています。失敗がなく尿意のある方が紙オムツから布の下着に移行し、自立した方もいます。夜間ポータブルトイレを置き、失敗を減らせるよう見守っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活での体動、散歩や食事的には繊維、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品を食したりして便意を促しているがやむなく薬剤に頼るところがある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人浴にてゆっくりと入浴、洗身され出来るだけ自身で衣類の着脱、整容をして頂き、水分補給をする。	週3回を目途に午後から入浴してもらっています。要望があれば、夜間の入浴も実施しています。好みのシャンプーを使う利用者や選択した衣類を着用することを楽しみにしている方もいます。拒否される方には声かけの仕方やタイミングを見たり、利用者の気持ちに添った対応をし、無理なく入ってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望にて午後の仮眠の自由や起床時、就寝時の時間管理を緩和して自室での寛ぎも大切にして自由性をもたせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在庫の服薬管理も少しずつ皆が出来る様になり誰でも対応出来る様になりつつある。配薬時は、本人確認、責任感を持って誤薬をなくす。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の嗜好趣味を把握して、折り紙、漢字、計算、塗り絵等や洗濯物整理、軽手伝いを苦にならない程度に社会的共同参加をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の散歩は常態化している。1人1人のその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。リフト車の度入もありどんどん戸外に出かけたい。	天気のよい日は、近くの公園に散歩に行き、全員の方が散歩できるよう努めています。個別に希望の外出先を聞き、買い物や以前住んでいた所へドライブをしています。近隣の公園の桜や二条城の桜、紅葉等、季節に名所の花を見に出かけています。	

グループホーム京都下京の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の希望や金銭トラブルの原因にもな可能性があるため職員が代行して買い物等をおこなうが、例外的に家族様納得のうえ少額の現金を所持して、自由に使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から定期的に便りがある方がおられる。他の方も便りが出来る様支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内外の換気、空調の管理を行い、又共有スペースにはカレンダーや、行事写真、又随時本人の希望を聞きつつ快適な生活が出来るようにしている。	行事の写真や利用者で作った季節の作品を廊下の壁面に飾り、家族の来所時に普段の生活の様子を見てもらい話題にするなど、共用空間が明るく過ごせる場になるよう工夫しています。リビングとキッチン是对面式で職員との距離も近く、利用者はテーブルやソファに座り、食事作りの音、匂いがする家庭的な雰囲気の中でくつろいでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間兼共有スペースにてその時の気持ちや体調を大切に生活空間の移動により気分転換を図り生活にハリ、変化の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今迄住み慣れ様式で過ごしてもらう為にダンス、着慣れた衣類を着て従来よりの生活様式を継続できるようにしている。	ベットは備え付けで、利用者はダンス、テレビ、仏壇、チェストなど、使いなれた馴染みの物を持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう家族と配置を考えています。大切にしている家族の写真、人形、小さな鏡、本、家族が作った作品も身近に置き、その人らしい居室となるよう工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	奥内部はバリアフリーであるが一、各居室は本人の安全性を取り入れた低いベッドの利用。トイレ内に手摺設置。		